

平成25年度福岡県支部研修会（報告）

福岡県支部長 東野善男

平成25年9月7日（土）のことです。研修会として「豊後高田市立図書館見学バスツアー」を開催しました。

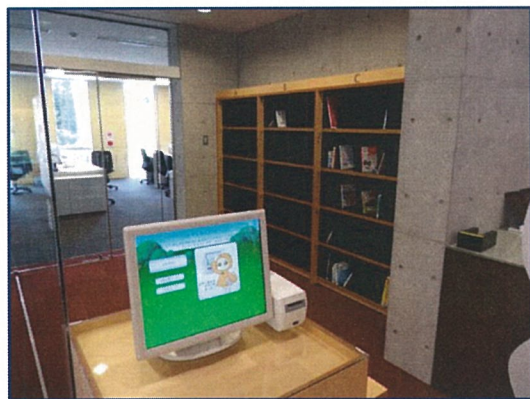
16人の参加者を乗せて、貸切バスは、朝8時に博多駅を出発、途中インターチェンジで休憩し、11時には豊後高田市立図書館（平成25年2月開館）に到着しました。図書館内では、栗屋文世館長やボランティアさんの説明の後、各自見学をしました。



（写真1 栗屋文世館長による説明）



（写真2 豊後高田市立図書館）



（写真3 IC予約棚）



（写真4 自動返却機）

午後のお楽しみは、昼食と昭和の町の自由散策です。まち散策は約2時間ほどでしたが、みなさんあっという間に過ぎたようです。夜6時過ぎには博多駅に無事到着しました。



(写真5 方倉陽二マンガ原画展)



(写真6 昭和の町)

(参加者の感想)

豊後高田市立図書館では、配架や施設の構造、ならびにシステムなど個人で覆れてはみえぬか知ることの出来ない事情等も興味深く学ぶことが出来ました。当館の図書担当のスタッフも興味をもったようで、館に戻ってから、様々な質問を受けることとなりました。更に、昭和の町で入った原画展では、方倉陽二氏が北九州市ゆかりの作家であることを知り、ミュージアムスタッフとしても収穫のあるバスツアーとなりました。(ミュージアム勤務 非会員)

天気予報は雨でしたが、当日は陽気に恵まれて少しも濡れずに図書館見学と昭和の町の散策を楽しむことができました。豊後高田市の図書館は、私が普段利用している町の図書館と大きさはあまり変わらないようでしたが、そこで働いている人の数は4人ぐらいと聞いて驚きました。人が少ない理由の一つは自動貸出機や自動返却機という秘密兵器があることです。そのうえ、貸し出し手続きをしないで図書館を出ようとすると、本のタイトルまで表示するゲートもあって、本当にびっくりしました。図書館の入り口のペン屋さんでマスコットキャラクターの花こづちちゃんのうちわをもらえたのもうれしかったです。これからいろんな図書館を見に行きたいです。(11歳 会員家族)

今回は参加対象者を西日本図書館学会の会員だけでなく、その家族や非会員にも広げることが参加者の満足度につながったと思います。参加者の内訳は、会員3人、非会員7人、子ども6人でした。まさに「ワーク・ライフ・バランス」のための取り組みです。西日本図書館学会も他の学会と同様、会員数の減少を懸念しています。そのような状況下では、対象者を広げることが逆効果ではないかというご意見もあるかも知れません。福岡県支部のひとつの取り組みとして、大分県支部とのパートナーシップを強化しつつ、このようなバスツアーを継続することには意義があると思っています。

更に大きな観点で言えば、西日本図書館学会がワーク・ライフ・バランスのための取り組みを進めることで、日本の図書館界での存在意義をPRできるのではないのでしょうか。

次回は大分県支部のみなさんにもたくさん参加していただけるような日程調整をしたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(『西日本図書館学会大分支部会報』用原稿)